

六国峠の道

多摩から三浦半島にかけての丘陵群を上空から眺めるとイルカがジャンプしている姿に見えることから「イルカ丘陵」と呼ばれています。横浜の南部に位置する円海山緑地はイルカのおなかの部分に当り、そこからは相模、武蔵、安房、上総、下総、伊豆の六カ国を望むことができます。

谷津浅間神社

口伝によれば、寛仁年間（1017～21）に御堂関白と呼ばれた藤原道長が能見堂に来遊したおり、東方にお碗を伏せたような山があったので「塗桶山（ヌリバケヤマ）」と名付け、富士浅間大菩薩を勧請したといわれます。祭神は木花咲耶姫（コハナサキヤヒメ）で、安産の守護神として崇められています。

谷津の庚申塔

江戸時代中期に谷津村講中によって建てられた三基の庚申塔が並んでいます。庚申信仰は、長生きをするためのものです。当時、庶民の命を縮めたのは疫病と飢饉でした。村に災いが入って来ないように、村境や辻に庚申塔が建てられました。明治時代以降一ヶ所に集められるようになりました。

正法院

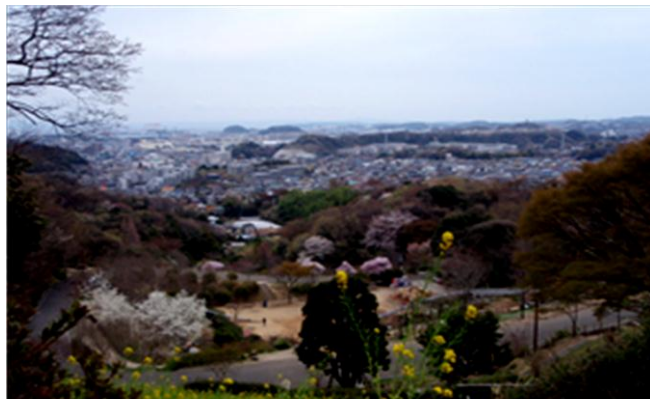
赤井山。真言宗御室派。本尊は阿弥陀如来。約1200年前、弘法大師空海がこの地を訪れた時、村人が日照りや疫病に苦しんでいました。弘法大師が井戸を掘り、井戸水を真言密教でお加持すると、たちまち水が赤くなり、その水で不動明王像を描き、護摩祈禱をしました。おかげで村人は救われたと伝えられています。その不動明王像は秘仏とされています。裏山に滝の不動明王が祀られ、「赤井のお不動様」として親しまれています。毎年1月28日の初不動は多くの方々が参拝して賑やかです。金澤七福神では福祿寿を祀っています。

能見堂跡

能見堂は、寛文年間（1661～73）に領主の久世大和守広之が、芝増上寺の子院を移設し、地藏菩薩を本尊として再興した擲筆山（テヒツツノ）地蔵院のことです。地蔵院は、明治2年（1869）正月、火災により、その幕を閉じました。貞享4年（1687）、中国からの渡来僧、心越禪師（シンゲツゼン）が故郷の景色を偲んで、ここから見た金沢八カ所の勝景を漢詩に詠んだことで、「金沢八景」の場所と名称が定まりました。歌川広重らがこれを題材に浮世絵を描いたことによって、能見堂は広く知られるようになりました。

江戸時代中期から明治初期にかけて観光ルートとして多くの文人墨客が訪れ、江戸庶民の遊覧地としても賑わい、茶店もありました。享和3年（1803）に江戸町人135人によって建てられた「金沢八景根元地」の石碑が残っています。

平安時代、宮廷絵師巨勢金岡が金沢の入江の勝景を描こうとしましたが、あまりの絶景に絵を描くのを断念し、絵筆を松の木の前根元に投げ捨てたとの伝説（筆捨松）もあります。この「筆捨松」は、大正8年（1919）の大風で折れてしまいました。現在は、能見台緑地として整備され、梅林として訪れる人を梅の香が迎えてくれます。



金沢自然公園からの眺め

金沢自然公園

標高は、最も高い所で116m。動物園エリアと植物区エリアからなっています。動物園では世界の希少草食動物を大陸別に展示しています。植物区のセンター「ののほな館」では、円海山周辺緑地に生息する動植物を展示しています。また、植物区には全長100mのローラーすべり台もあります。海の見える小径展望台からは、横浜金沢の中心部を眼下に一望することができます。

大丸山

標高156.8mで、栄区との境界に近い金沢区釜利谷町にあり、横浜市の高峰です。大丸山を含む約26haが「金沢市民の森」に指定されています。東京湾に向かって眺望が開け、八景島や房総半島が一望できます。

関ヶ谷奥見晴台

標高148.1m。北に展望が開け、「バイブリッジ」や「つばさ橋」が望めます。好天に恵まると遠く「スカイツリー」を望むことができます。



能見堂 金沢八景根元地の碑

横浜自然観察の森

日本で初めて自然観察の森として昭和61年（1986）3月に開園しました。横浜市内最大の円海山周辺の森の最南端に位置し、約45haあります。谷・湿地・台地・草原・樹林地など変化に富んだ地形で様々な「いきもののにぎわいのある森」を目指しています。